

横浜を出航して10日余。神戸からも300名くらい乗船し、乗船客は全員で981名。生後10ヶ月から90歳代(3名)まで幅広い年齢層だ。上海、ダナンと寄港し、現在、船はシンガポールへと向かっている。

一日の生活パターンもほぼ定着してきた。朝、6:00起床。9階(最上階9デッキでラジオ体操、太極拳。何10年ぶりのラジオ体操だがなぜか第1、第2とも忘れていなかった。太極拳はまだ見よう見まねだが、四方水平線に囲まれた中で体を動かすのは気持ちよいものだ。

体を動かした後は、8階のレストラン“ヨットクラブ”で朝食(コーヒー、パン、チーズ、ヨーグルト)。この船のメインレストランは“トパーズルーム”といい、4階に位置している。そこでは朝食には和食も用意されている。8階で軽く朝食をとると私は4階に移動し、味噌汁と生野菜と果物を食べる。つまり、朝食のハシゴをするのだ。

食後は、レストラン前に置いてあるピースボート新聞“四つ葉”(毎日発行)を一部もらって自分のキャビンに戻る。新聞にはその日の催し物の一覧が載っている。興味あるところに参加する。何もせずボーッとするはずがついあちこち首を突っ込んでしまう。絵手紙とコーラスの講座にはもう3回も参加してしまった。

それぞれの講座はピースボート乗船者が自分の特技を生かして自主企画し、‘この指とまれ’方式で行われている。又、“水先案内人”と呼ばれるジャーナリスト、ミュージシャン、作家、NGO活動家etcを招いての講座も2~3日に1回くらいの割合で開かれている。

この10日間では、こども達に戦争について1000回以上も話しをしている本多立太郎さんの話を聞いた。話の内容は勿論だが、91歳という年齢とは思えない情熱と若さには感激した。30歳年下の私は全くだらしがないというしかない。他にも、中国NGO研究家の王名さん、マレーシアの人権活動家であるチャンドラ・ムザファーサンたちの興味深い話を聞くことができた。これから先の寄港地から乗船してくる水先案内人には高遠菜穂子さんや森達也さんがいるので非常に楽しみにしている。

昼食をはさんでそんな講座に参加したり、キャビンに戻って昼寝をしたり、デッキで手紙を書いたりしているとたちまち夕食の時間になる。夕食は、4階のメインレストランで食べる人が多いから前半、後半に分かれる。私は後半で、19:30~のグループだ。飛鳥などの豪華客船とは違うから、ジーンズ、スニーカーでもOKだ。フォーマルディナーは105日間のうち数回だけというから気楽である。乗船3日目に船長主催の歓迎ディナーがあったが、女性はワンピース、男性は上着にネクタイ程度でよかった。イブニングドレスにタキシードという世界でないことは助かる。

毎夜、シアターでは日替わりで映画が上映されている。私はまだ見てないが…。8階のレストラン“ヨットクラブ”が20:30から居酒屋“波へい”になる。私はまだ1度しか

顔を出していないが、日本酒も何種類かあって格安でなかなかいいところだ。だいたいこれで一日が終わる。時差が生じる日は午前0時に1時間進ませたり遅らせたりする。

洗濯は部屋に常備したある大きな布袋(60cmX40cm)に入るだけ詰め込んで枚数を伝票に記入しサインして置いておくと部屋係りの人が持って行って2日後にクリーニングされて戻ってくる。1袋600円。コインランドリーもあるがむしろ割高になるので、下着類だけはシャワーを浴びる時に手洗いし、それ以外のTシャツやジーンズはクリーニングに出してしまう。

この船、トパーズはパナマ船籍で、総トン数31,500トン。進水したのが50年前というからかなり古い船といえるだろう。その間に何回か名前を変えて現在はトパーズという。他の客船に乗ったことがないので比較はできないが、キャビンのシャワー、トイレ、洗面台、クローゼットなど、必ずしも使い勝手がよいとはいえない。でも慣れてしまえばこんなものかと思えてくる。

予想外だったのがインターネットの接続がスムーズに行かないことだ。6階のレセプションでパソコンのキーとマウスを借り、7階のパソコンが数台置いてあるブースまで行ってやるのだが、それがなかなか接続しない。通信衛星を使った無線ネットワーク接続とかで、スピードが遅くつながりにくいのだそうだ。30分1,000円、これはレセプションでマウスを借り出した時点から返却までの時間がカウントされる。階段を駆け上がり、パソコンとマウスをつなぎ、アドレスを打ち込み、さて文章をなんて考えている間にすぐに1時間くらいは過ぎてしまう。その上原因不明のトラブルで不通なんて…。「あ〜あ!ビール5杯分が消えた〜」なんてつい愚痴ってしまう。レセプションの人も「寄港地のインターネットカフェでやった方が確実ですよ」という。しかたがない、せつせと手紙を書いて投函することにしよう。届くまでに日数がかかっても仕方がないだろう。

健康状態良好。知人に教えてもらった市販薬アネロンと病院で処方してもらったポララミンが効いているからかひどい船酔いになることはなく、食事も1日3食きちんと食べている。この調子で行けば、105日何とか乗り切れるだろう。診療室が私のキャビンの並びにあるというのも便利(?)だ。あまり世話になりたくはないが…。ドクター2人(1人は日本人)と看護師1人がいる。

船は明日、シンガポール入港。その日の夜半には出航するから10数時間しか停まらない。そこで投函しようと思う。

(2005年2月13日)

P.S. 上海までは真冬の寒さだったのにもうすっかり夏。キャビン内も暖房から冷房に切り替わった。

